

目次 第二卷 道教の展開

道教と老子

砂山 稔 三

一、道教と老子——五

はしがき 『莊子』と老聃説話 『史記』の老子伝 武帝時代の神仙思想 神仙となつた老子 辺訥（へんしやく）の老子銘 『老子變化経』 黄老（かうろう）・浮屠（ぶと）と化胡説・『化胡経』 葛玄の『老子道德経序訣』 葛洪の老子・老君像 寇謙之と太上老君 『真靈位業図』と元始天尊 まとめ

二、道教と『道德経』——三

『道德経』の成立 『道德経』における「道」の思想 漢代の『道德経』の注釈と魏の王弼注 三張の五斗米道と『想爾注』 『節解』 『河上公注』 靈宝派と太玄派 まとめ

三、道教と老子と『道德経』——七

隋・初唐の重玄派 傅奕・尹文操・王懸河 玄宗時代の道教と老子と『道德経』 まとめ おわりに

道教と儒教

楠山春樹 四

- 一、『抱朴子』の倫理思想——三
はじめに 道教戒を中心として 葛洪の人物 『抱朴子』に見える道教 道教のもつ意義 太上感應篇
 - 二、道教戒に見える儒教思想——五
道教戒の概要 道教における五戒 道教における八戒 道教における十戒 むすび
- 福井文雅 五

道教と仏教

- 一、道・仏二教の関係交渉史——七
はじめに 神仙方術との結びつき 「道教」の成立 仏になった老子 道・仏の抗争 三教の調和論
- 二、道・仏二教の相関——教理と経典——一〇五
四つの分類 金光明経 孔雀明王経 父母恩重経 維摩経問疾品 法華経 三悪道 十二部 承負と応報思想 男尊女卑
- 三、道・仏二教の相関——儀礼——二七

- 読経 開経偈 八関斎 放生 戒律・図像
- 四、道・仏の相違点——道教の特色——二三
まとめ 道士の等級 秘伝の重視 身中の神々 房中術 呼吸法 気の重視

民衆道教

奥崎裕司 一三

- 一、民衆道教の歴史——二七
はじめに 太平道・五斗米道 三教会一の源流 宋代の新道教
- 二、民衆道教の経典——二四
太上感應篇
- 三、宝巻——二四九
宗教的宝巻 『邪教』とは 文学的宝巻
- 四、功過格——二五
功過格の意義 最古の功過格 宗教的条目 さまざまの善事 過となる条目 おわりに

社神と道教

金井徳幸 一六

一、「社」概観——一七

社の起源 社の変化

二、村社（里社）とその対象神——二五

社壇 村社 村社の祭り 社神の移りかわり 社神の変化と巫の介入

三、関羽信仰の展開——二八

関羽終焉の地 関羽出生の地 関帝廟その後

四、土地廟とその神——二七

「満州」の屯 土地神の役割 城隍神と土地神

五、華北の神々——二九

沙井村の信仰 侯家宮の信仰 冷水溝荘の信仰 路家荘の信仰 後夏寨の信仰 吳

店村の信仰

六、江南の土地神——二七

福德正神

七、村社とその広がり——二九

郷社 土神 郷社と土蒙 民国期の郷社 むすび

道教と民衆宗教結社

野口鐵郎 二〇二

一、民衆宗教結社とは——三二

民衆宗教結社とは何か その歴史的役割 宗教結社と道教 民衆宗教結社の二系統

二、宝巻と道教——三三

宝巻とは何か 宝巻の体裁 宝巻と宗教 宝巻と道教

三、民衆宗教結社の神と道教の神——三九

仏教系の神々 道教系の神々 三教融合と宗教結社の神々 新しい神々の誕生

四、「妖術」と道教の術——三五

宗教結社の術 方術に類するもの 養生術に類するもの その他の術

五、現代の民衆宗教結社と道教——三三

中国の近・現代と宗教結社 人民共和国の宗教政策 残存する中国人の宗教 一貫道と

道教 徳教と道教

道教と中国医学

吉元昭治 二五

一、宗教と医学——三五

宗教と医学 中国人の願い 道教の医学的部門

二、中国医学の発生と特徴——三五

中国伝統医学の特徴 アニミズムとシャーマニズム 巫と医

三、目錄学的見地からみた道教と中国医学——三六

漢書芸文志 隋書經籍志 旧唐書經籍志 唐書芸文志 宋史芸文志 明史芸文志

醫師II道士

四、道藏、道藏輯要、雲笈七籤等にみる医書——三九

道藏 道藏輯要、雲笈七籤 道教子目引得

五、馬王堆出土の医書(導引図)について——三七

出土した医書 導引図

六、中国医書にみる道教の影響——三七

中国伝統医学の流れ 素問 王冰について 素問の内容 靈樞 靈樞の内容 神

農本草経 備急千金方 諸病源候論 医学入門 奇経八脈考 鍼灸大成 患雅内

外編

七、『太平経』にみる医学——六四

太平経 氣と天地人 善行 病因と解剖生理 治療法

八、「道教と中国医学」さまざま——三九

皇甫謐 王羲之など 杏林 立教十五論 三尸 五臟図 天医儼

九、現代における「道教と中国医学」——二六

薬籤 医薬の神々 玉匣記、符咒秘書 氣功 おわりに

道教と文学

遊佐 昇 三

一、六朝・唐の文学と道教——三三

はじめに 遊仙詩について 屈原と天界 『莊子』の文学性 涉道詩について

『文選』と道教 嵇康と道教 唐代の道教 李白と道教 樂府と民間信仰 步虚詞

について 步虚詞と道教醮儀

二、中国の小説と道教——三三

中国の小説について 志怪小説と道教 北斗信仰と庚申信仰 六朝期の民間信仰

三、敦煌俗文学と道教——三六

敦煌文書と変文 冥界・地獄の物語り 目連変文 「十王経」について 司命神につ

いて 唐太宗入冥記について 崔府君について 「葉浄能詩」について 董永変文

敦煌での道教

四、近世の俗文学と道教——三五

宋代の演芸 説話について 三言二拍について 擬話本に見られる道教 道情につい

て 道情と道教の結びつき 宝巻について 宝巻と宗教結社 善書と宝巻 香山宝

巻

道教と年中行事

中村裕一 三七

- 一、清代蘇州の年中行事——三七
はじめに 財神の生日 玉皇大帝の生日 劉猛將軍の生日 三官大帝の生日
- 二、二月・三月の神々——三八
土地神の生日 城隍神の出巡 玄壇神の生日 東岳神の生日
- 三、衆生済度に尽す神仙たち——三九
呂神仙の生日 張天師の魔よけ符 鍾馗 閻帝（閻羽）の生日
- 四、治水・治病に祈られる神々——四〇
二郎神の生日 二郎神の生日 龍神の送迎 門神 おわりに

索引——四三

監修者略歴

執筆者略歴

第二卷 道教の展開